

もくじ



今月の表紙
『日岡神社』

事業所データ

◆代表者

まつざき まさと
宮司 松崎 正誠

◆所在地

加古川市加古川町大野 1 7 5 5

◆電話

079-422-7646

◆ホームページ

<https://www.hiokajinja.jp/>

◆表紙写真

- ①中央が松崎正誠さん、右隣は前宮司の父正俊さん
- ②干支の大絵馬
- ③無病息災を願って茅の輪をくぐる。夏越祭の様子。
- ④亥巳籠明けに行われる禊人による的射神事
- ⑤大碓命と小碓命の産湯に使われた石のタライのレプリカ。原物は神社から南へ1kmの美乃利地区にあります

1 年頭のごあいさつ 加古川商工会議所 会頭 釜谷 和明

2 新年ごあいさつ 加古川市長 岡田 康裕

4 特集 年男・年女に聞く ～今年の抱負～

9 エッセイ 「振り返りこれからを思うこと」
マネジメントオフィス たき
代表 多木 有一 さん

11 会議所のうごき 秋の但馬を満喫
- 会員交流バス旅行を開催 - 他

11 団体だより 女性会・青年部・異業種交流会

15 謹賀新年名刺広告

20 会議所からのお知らせ 年末調整のお手伝い 他

20 会議所カレンダー 「今月の“こんな日”」

ご覧ください加古川商工会議所のホームページ <https://kakogawa-cci.or.jp/>



地域に愛される神社とつづ

「1300年の歴史を守る重責を担うことになり、その職責を全うすべく決意を新たにしています」その力を込めて話すのは、昨年4月に父正俊さんのあとを継いだ宮司松崎正誠さんです。

天伊佐佐比古命（あめのいささひこのみこと）を主神とし、天平2年（730年）に創建されたとされる日岡神社は、安産の神として名を馳せ、地域はもとより全国から参詣者が絶えない、加古川を代表する神社で、写真や写生のスポットとしても親しまれています。

安産の神の由縁は、一説には稲日大郎姫命（いなひのおおいらつめ）が双子（大碓命、小碓命）を身籠もった際、七日七夜祈願をし無事安産で出産されたことからともいわれ、これは当神社で2月に行われる「亥巳籠（いみごもり）」の起源に関わるとも言われています。松崎さんは「亥巳籠中は神殿を縛で囲い注連縄を張り巡らせ、鈴を柱に結わえ一切の音を禁じ、地域の安寧を祈ります。明けて午の日に、禊人が行つ的射（まとい）の神事をニューズなどで見たことがある人も多いのではないのでしょうか」と話します。

ご祈禱にいられた方にお渡しするご神供の準備も宮司・神職の3名で行っています。「もち米2升、うるち米2升を蒸し、一晚お供えした後、一粒一粒ばらし、その後1年間、ご祈禱にいられた方にお渡しします。大変な仕事ですが、神様に捧げたご供物を皆さまにお渡しすることでご加護を受けていただくためのもの、心を込めて丁寧に扱つよう心がけています」

ご祈禱は安産祈願をはじめ、初宮詣り・七五三詣りのほか、厄払いや交通安全祈願もされています。松崎さんは「当神社にお越しになる方やお祝いで来られる方が多いので、皆さんの笑顔を見るところらまで幸せな気持ちになります。代々でご祈禱にいられる方もいて、遠く離れてもわざわざこちらにお詣りにお越しいただけるのは本当に有難いですね」と感謝の思いを口にします。

「近年は地域の人の入れ替わりも激しく、高齢化問題も重なり年中行事に関わってくださる方が減ってきています。地元の方々と対話を重ねてこの問題に取り組んでいかなければなりません。一人でも多くの方に地域の神社として理解を深めていただけるよう、私自身も精進を続けてまいります」

神社仏閣巡りなどがブームとなるなかで、真の「愛され親しまれる神社」とは何か、を追求する松崎さん、長く続くその道ははじまったばかりです。